組合員数109,833人
支部数　942
読者数　67,314人
（5日現在）
〔連絡先〕☎03（5978）2751　FAX03（5978）2777
E-mail/honbu@nenkinsha-u.org
ホームページ/年金者組合と入力し検索して下さい。

年金者しんぶん

第381号　2021年9月15日（水）
（通巻第580号）
全日本年金者組合中央本部
〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル
発行人　杉澤　隆宣　月刊１部100円（組合費に含む）
昭和57年６月30日第三種郵便物認可

ひどすぎる　国、自治体のコロナ感染対策

国民のいのちまで自己責任

年金者組合の仲間や家族からも新型コロナの犠牲者、感染者が出ています。人びとの命とくらしを守るための対策・手立てを打とうとしない国、自治体への怒り、不信がかつてなく高まっています。権力維持しか頭にない自公政権に総選挙で「レッドカード」をつきつけるしかありません。

検査も入院も後手

手遅れで逝ったフサ子さん

兵庫・西宮支部組合員のフサ子さんが新型コロナ感染症で5月26日に亡くなりました。心よりご冥福をお祈りいたします。今の兵庫県の医療体制が、「助かる命が助けられない」状況であることに、何とも悔しく悲しい思いです。

フサ子さんは、5月3日ごろ息苦しくなり、かかりつけの医者の診察を受けました。「ただの風邪です。大丈夫！」と言われました。

しかし、自宅で3・4日療養しても、だんだんひどくなるので、保健所に電話をしました。「かかりつけのお医者さんが大丈夫と言ったらそれでいいです」と言ってPCR検査もしてくれません。

息苦しさはひどくなる一方で、娘さんが保健所に「母を殺す気ですか」と診察・検査を申し出て、やっとU病院で受診。PCR検査は陽性でコロナ感染症と判明しました。

しかし入院させてもらえず、あちこち当たってもらって全部断られました。やっと姫路の病院が受け入れてくれることになり、約70キロメートルを寝台式の車で運んでもらいました。この時点で肺が真っ白で、血中酸素濃度は80まで下がっていました。

コロナ病棟に入ったら面会もできず、娘さんとは携帯電話での対話のみでした。しかし、しんどくて電話が終わればぐったりとして、ナースコールを押すこともできなくなりました。点滴などをして娘さんたちの励ましを受けて、フサ子さんは1カ月近く頑張りましたが、息を引き取りました。

かかりつけ医の段階でPCR検査を受けられていたら、保健所の指示が的確で早かったら、陽性判明時点で近くの病院にすぐに入院出来ていたら命は救えたのに、と思うと悔しくてなりません。

個々の医療機関や保健所の対応を責めるつもりはありません。国や兵庫県が、保健所や保健師を減らし、公的な病院と医療機関を減らしてきたからです。

国民のいのちを本当に大切にする国、自治体になってほしいと強く願います。

（西宮支部・小川嘉憲）

放置される孫　自宅で死ね！ということか

首都圏に住む孫が新型コロナに感染した。40度の発熱でぐったりして食欲もなく、家族感染しないよう自室にこもり、二度ワクチンを接種している弟が面倒を見ている。入院は150人待ち、ホテル療養も見当がつかないうえ、パルスオキシメーターも借りられなかった。

「このまま自宅で死ねということか」と、娘から悲痛な電話を受けたとき、私は怒りとショック、不安で全身が震えた。「安心安全」と呪文を唱えながら、人命軽視の東京オリンピックの開催強行、新型コロナへの無策、国民の命を何と思っているのか。このような政権を決して許すわけにはいかない。（岡山・玉野支部・藤沢喜代子）

自公連立政権にレッドカードを

国民の命を軽視するコロナ感染対策と政治の私物化による腐敗は目にあまり、政権交代を望む声が高まっています。

中央本部は7月29日、菅自公政権に退場を迫るべく、立憲5野党と参議院の2会派に、「衆議院選挙で野党共闘の推進を強く要請しました。

要請の内容は、①菅自公政権と補完勢力を過半数割れに追い込むため、小選挙区統一候補擁立など最大限の協力を行う、②小選挙区統一候補者の当選に向けて最大限の協力を行う、③市民連合の「立憲野党共通政策の提言」を選挙公約に掲げ、選挙戦をたたかう、の3項目です。

立民・共産などに野党共闘よびかけ

中央本部

共産党の倉林参院議員（右端）に政府交渉の橋渡しを要請する中央本部の杉澤委員長（その左）ら

「提言」実現へ各界に要請

最低保障年金　立民「説明ききたい」

年金者組合中央本部は6月の第25回定期大会で決定した「最低保障年金制度実現への提言」の実現へ、各政党、労働団体、民主団体、マスコミ各社などを訪問し、協力を要請しています。

「くわしく説明を聞きたいので訪問してほしい」（長妻元厚労相・立憲民主）、「制度設計に検討したい」（れいわ新選組）などの反響があります。

8月27日には、倉林明子参議院議員（日本共産党副委員長）を、杉澤委員長、田中、加藤両副委員長が訪ねて「提言」内容を説明するとともに、政府交渉への橋渡し役を要請しました。倉林議員は「ジェンダー平等実現という点からも最低保障年金の実現は大切」とのべ、「厚労省政務三役（大臣、副大臣、政務官）への要請が実現できるよう努力します」と積極的に賛同しました。

風雪

▼前号の鹿児島姶良・伊佐支部・城戸さんの「お茶の間映画館」の記事に、「ぜひわが支部も」とノウハウの問い合わせが寄せられた。上映会が広がるよう期待している。

▽実をいうと、「年金しんぶん読者が選ぶ名画ベスト10」の公募・発表をしたいと思っているのだ。「キネマ旬報」のオールタイムベスト10とは一味違う結果が出ると思うし、子や孫の人生の道標にもなる。

▼ちなみに「風雪子」のベスト洋画は「旅芸人の記録」である。第二次世界大戦前後のギリシャの悲喜劇を雄弁に物語る。邦画では大林宣彦監督の遺作となった「海辺の映画館」が明治維新から敗戦までの若者を描いてなかなかのものだった。

▽新型コロナ禍で、集まり、話し合う機会も限られているが、横浜の河野優司さん監督の「2887」も上映中。ミニスクリーンを活用して、政治を変える対話を進めよう。